

製薬会社による

「沖縄力発見ツアー」を実施



内閣府は、12月6日(金)～12月7日(土)、製薬会社の幹部の方々に沖縄のポテンシャル(沖縄力)を実体験いただくため、「沖縄力発見ツアー」を実施しました。ツアーでは、沖縄科学技術大学院大学や琉球大学等の「知の基盤」の形成状況を見ていただくとともに、これからの沖縄への投資促進や新たな産業の創出・振興について、地元の製薬・医薬関連企業の方々と大学研究者の方々との意見交換も行っていました。

ワーキング・ディナー



沖縄力発見ツアーの初日(6日)は、県外から参加された13社の幹部の方々と、後藤田内閣府副大臣、川上沖縄県副知事、県内経済界関係者、県内製薬・医療関連企業等の方々との間でワーキング・ディナーを実施しました。

ワーキング・ディナーの冒頭、後藤田副大臣から、「本ツアーを契機として、我が国の製薬会社と沖縄県の産業界とが互いに力を合わせ、沖縄科学技術大学院大学・琉球大学・沖縄工業高等専門学校等を核とした知的・産業クラスターの形成、沖縄への投資促進や新たな産業の創出・振興など、沖縄経済のますますの発展に取り組んでいただくことを祈念します。」と挨拶がありました。

また、意見交換に先立って、河合沖縄総合事務局長から、「成長するアジアの中心に位置する沖縄」について、ジョナサン・ドーファン沖縄科学技術大学院大学学長から、「沖縄科学技術大学院大学の成り立ちと産学官連携活動」について説明がありました。



ドーファン学長によるプレゼン風景



河合局長によるプレゼン風景

視察



翌日(7日)は、うるま市所在の沖縄ライフサイエンス研究センター、沖縄健康バイオテクノロジー研究開発センター、沖縄科学技術大学院大学、那覇空港新貨物ターミナルビルを視察しました。



ワーキング・ディナーにおける意見交換



沖縄科学技術大学院大学での説明風景



沖縄健康バイオテクノロジー
研究開発センター視察



沖縄ライフサイエンス
研究センター視察

研究者及びバイオ企業等 とのディスカッション

沖縄科学技術大学院大学においては、共同研究等に向けた意見交換を行いました。

地元のベンチャー企業からは、以下の意見がありました。

○安くて高品質のワクチンを作る技術は確立したが、生産するのは小さな企業では難しく、製薬メーカーと組んで世界的な展開をしたい。

○沖縄はアジアに近く、お互いに親近感を持っている。沖縄に研究所があれば沖縄だけではなくアジアのシーズも活用できるのではないか。



研究者及びバイオ企業等とのディスカッション

琉球大学医学部との意見交換

琉球大学においては、医学部の研究を紹介していただくとともに、ゲノムコホート研究（疾病等の関連要因に対する追跡調査）や沖縄における疾病等の状況について意見交換を行いました。

医学部の先生方からは、「沖縄の特徴である島嶼性は、ゲノムコホート研究では他地域より優位性がある。」「肥満予防には玄米の成分が有効で、その成分を同定し医療応用を目指して研究している。」などの話がありました。



琉球大学医学部との意見交換

ツアー参加者からの声

ツアー参加者からは、

○ベンチャー企業に求めるのはナンバーワンではなく、ユニーク、競争優位性であり、オンリーワンで

ある。何がオンリーワンなのかを見せてくれれば薬品メーカーとしては興味が出てくる。

○アメリカが突出しているのは、ベンチャーとアカデミアの連携。最後の創業の部分は膨大な金と人が必要になることから、ベンチャー企業のアイディアと人をいかに方向にある。アカデミアの研究をベンチャーがいかに、アカデミアに戻すという仕組みが必要になっている。

○ワクチンの良さは、化学物質とは違って副作用という点で非常に安定しているという点。活路はワクチンにもあるので、飛びつけるような取組を期待したい。

といった意見がありました。

内閣府では、今回の沖縄力発見ツアーで頂いた様々な方々のアドバイス、お声を今後の取組にいかしていきたいと考えています。



那覇空港新貨物ターミナルビル視察